

税金

暮らしと政治が
見える

29

三木 義一

消費税の総額表示が実施されてから二週間経過しました。読者の皆さんは消費税が価格に隠れてしまっている、今までは消費税のことが気にならなくなっていましたか？「5%は重いので決して忘れませぬ」と書の方もいると思いますが、ビールを購入される時ほどうですか？あのビールには酒税だけではなく消費税もかかっていたのですが、どのくらい負担していたのか自覚されていましたか？

もし、皆さんが百八十円と表示されている大瓶ビールを購入し、レジで代金を払おうとしたら、「百八十円に酒税百四十円と消費税十六円、合計三百三十六円

見えないビール税

いただきます」なんて言われたら、酒税や消費税のことやいまでも自覚させられますよね。でも、酒類の場合以前から総額表示(内税)方式でしたから、値段は気になっても税負担のことはあまり意識していません。

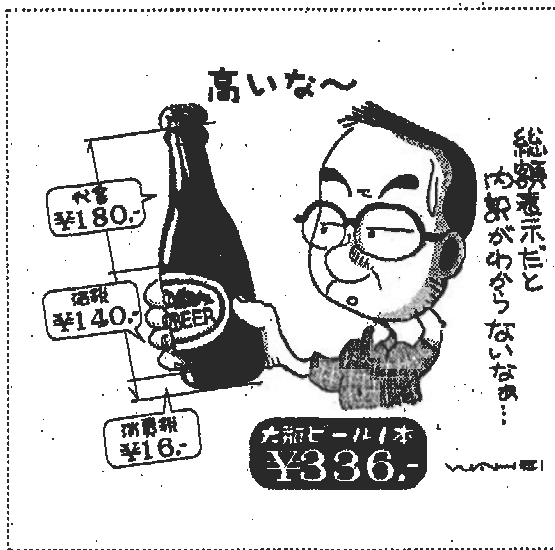
“大衆酒”に不合理な高率

おそらく消費税について、皆さんがあまり気にしていない、皆さんがあまり消費税に過敏にならなくなったら、税率を引き上げるといふ戦略を財務省は考えているのだと思われます。

それにしても、ビールの税率の高さは異常です。国

際比較しても突出して高い。日本のお酒の中でも一番高率になっています。日本の酒税はビール、清酒、焼酎、果実酒といったお酒の種類ごとに税率を区分しています。その理由は高いのは明らかに不合理です。

ところが、ビールはもと



もと舶来の高級酒でした。財務省の昔の本には、ビールは料亭で飲む酒だから高い税金を課せろ、と説明しているものがあります。こういう経緯でビールに対する酒税が導入されたため、戦後ビールが普及し、大衆酒になったのに、合理的な見直しがされませんでした。その最大の理由は、ビール会社が大手で税の徴収が確保できるし、総額表示ですので、消費者にその不合理性が気づかれなかったからです。

ビール酒造組合も昨年九月「ビールの酒税減税に関する要望書」を提出しています。ビールの税率が妥当なものに是正されれば、高税率を回避するための発泡酒等も不要になり、「本物のビール買ったら妻激怒」なんて哀れな川柳もなくなるはず。

(立命館法科大学院教授)

